

記入年月日:令和 7年 3月 10日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等スペースとの関係で適切であるか	○		個別療育や集団療育で最大で5名の利用者に療育室をご利用いただいています。個別療育の際には、滑り台やボールプール、平均台等運動器具を設置しても高い天井もあり、子どもたちはのびのびと過ごすことができる環境が整っています。また、集団療育では5名と職員で鬼ごっこをしたり、転がしドッチなどできる広さです。
	2	職員の配置数は適切であるか	○		児童発達支援管理責任者、常勤保育士2名以上が配置されています。児童指導員等加配加算、専門的支援体制加算も取得できる人員が揃っています。
	3	療育室は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	○		おもちゃなどの設置は少なめにし、ホワイトボードにその日にやる課題を写真カードで並べるなどして構造化しています。また、手洗いの手順についても写真とともに視覚的に手順を示しています。バリアフリーについては段差などがありますが、ベビゲートを設置して視覚的に分かりやすくしています。
	4	療育室は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	○		毎日職員全員で掃除・消毒・換気を行っています。教具も利用者様に使用すごとにアルコールや希釈した次亜塩素酸ナトリウムで拭いています。また子どもたちの身体の大きさに合わせた机の準備をしています。
	5	必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか	○		療育室には半個室になっている空間があり、子どもの特性や必要に応じてその場所を使用することができます。また、集団療育の際は使用しない保護者席を活用して、完全に別の空間で過ごすこともできるようになっています。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	○		ヒヤリハットや事故、業務ミスなどがあったときには必ず職員会議で情報共有と相談を行い、再発防止に努めています。また毎月行っている運営会議等では、常に業務の効率化を図るために職員1人1人が1か月の業務を振り返り、意見を出し合っています。
	7	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○		評価表を保護者に配布し、結果を受け、事業所内会議を行いました。保護者等の意向を職員に全員に共有し、より質の高いサービス提供につなげてまいります。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか	○		毎日の情報共有では、他職員への業務に関する共有や、療育支援で困った際の事例検討や相談ができる環境をつくっています。また、月に一度行っている運営会議では、業務全般についての意見を集め、常に業務を見直し、改善へとつなげております。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか		○	第三者による外部評価は実施しておりません。
	10	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○		社会福祉協議会が開催する研修や、強度行動障害の研修などに参加しています。また、ABA(応用行動分析学)やPECS(絵カードコミュニケーションシステム)等研修にも積極的に参加し、参加した職員を中心に社内でも共通認識の上での支援ができるよう、共有する時間を設けています。
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか	○		支援プログラムはHPに掲載しております。

適切な支援の提供	12	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、個別支援計画を作成しているか	○	契約時や個別支援計画の更新時には、保護者様や利用者様本人の希望やお困りごとを伺うため、アセスメントシートにご記入いただいています。
	13	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	○	契約時に、保護者さまに「KIDS乳幼児発達スケール」を使ったアセスメントを行い、お子さまの適応行動の状況を把握しています。また、応用行動分析学(ABA)の研修を通して、行動の先行刺激や結果などを分析し適応行動を増やしていくための行動分析を行っています。
	14	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	○	発達支援については、個々の願い・お困りごと・アセスメントシートなどを元に、具体的な目標を定めサービス提供を行っております。家族支援、地域支援については計画作成時に明確な目標があれば設定しておりますが、必要に応じて対応していくことが多いです。(保護者様から「こういう時にどう指導したら良いか?」とご相談を頂いたときにお答えする、小学校就学へ向けてのご相談を受けて園を訪問し集団での様子を見させて頂く、など)
	15	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	○	担当職員は、療育前に必ず計画に目を通し、計画に沿った課題をご用意しております。
	16	活動プログラムの立案をチームで行っているか	○	毎日行った療育の内容や利用者様の様子を職員間で情報共有しております。課題が見つかった時には皆で意見を出し合い、お子様に好きなことに合わせた課題を考えたりしながら、一つひとつ丁寧に取り組んでいきます。
	17	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○	お子様の段階に合わせた課題や、伸ばしたい力にフォーカスした上で、プログラムが固定化しないよう教具やプリントを手作りするなど工夫しています。
	18	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせることで児童発達支援計画を作成しているか	○	祝日・日曜日に開催している集団療育にご参加いただいている方には、集団での目標も併せて目標設定しています。
	19	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○	毎日職員会議でその日行う療育の担当者・内容などを確認しています。
	20	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	○	毎日職員会議で行った療育の情報共有・支援方法などの相談を行っています。
	21	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○	療育後には毎回サービス提供記録を作成し、どのような教具を準備し活動を行ったのか、お子様がどのような様子であったかを記録しています。また保護者様がスマートフォンなどから内容を確認できるようにしています。支援については職員間で情報共有にて、意見を出し合い、よりよい支援に繋げています。
	22	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	○	少なくとも半年に一度はモニタリングを実施し、お子様の様子に合わせた計画となるように見直しを行っております。
	23	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○	サービス担当者会議には、児童発達支援管理責任者を中心に、普段支援を担当している職員が参加しています。
関係機関や保護者との連携	24	地域の保健や医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行う体制を整えているか	○	市の子ども福祉課、保健センターなどと必要に応じ連携しています。またお子様が通う保育園、幼稚園、小学校等の関係機関とは保育所等訪問支援などを通じて、情報共有を行い、連携しながら支援を行っています。
	25	併行利用や移行に向けた支援を行う等、インクルージョン推進の観点から支援をおこなっているか、またその際、保育所や認定こども園、幼稚園等との間で、支援内容の情報共有と相互理解を図っているか	○	就学前のお子様には、小学校生活に見通しを持つことができるように、集団療育にて、「学校体験」を行い、イメージを膨らまたり、学校での流れを絵本を使って伝えたりしています。また、利用者様が通園している保育園・幼稚園等には、保育所等訪問支援を行い、情報共有や就学に向けた支援のご相談に応じています。
	26	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	○	必要に応じて小学校・養護学校等の見学等に同席させていただき、普通級・特別支援学級・養護学校などの進学についてのご相談などに乗らせていただいています。また、就学前のお子様にはサポートブックの作成等をお手伝いさせていただき、就学先の学校と支援内容の相互理解を図っています。
	27	地域の児童発達支援センターと連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか	○	必要に応じて、連携を図ってまいります。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	○	公園などに外出して療育を行う場合には、公園に遊びに来ている他の子ども達と接する機会があります。また、一般開放する夏祭りでも、地域の子どもたちとの交流の場となっています。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか	○	名東区自立支援連絡協議会そだつ部会に参加し、事例検討等を行っています。また、年に1度開かれる障がい福祉事業所合同説明会(わくわくフェア)にも毎年参加をしています。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○	毎回療育後には、必ずフィードバックを行い、お子様の状況を保護者様と伝えあっています。また、保護者様が療育見学をされる場合には、お声がけをして最近の様子などのお話を伺っています。課題については個別支援計画においても共有しています。
	31	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っているか	○	保護者様とのやりとりの中でご質問に回答したり、適切な対応をお伝えしたりしております。また、ペアレントトレーニングを実施し、保護者様のお子さまとの関わり方のご提案をしています。
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○	契約時には、可能な限り丁寧に運営規定のご説明を行っています。また、就学時には特に、利用者負担額についてのご説明を個別で行っています。保護者様からご要望があれば、随時ご説明を行っております。

保護者への説明責任等	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「個別支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から個別支援計画の同意を得ているか	○	児童発達支援ガイドラインに基づいて個別支援計画を作成し、保護者様にご説明しております。また、ご説明時に保護者様からのご要望があれば、個別支援計画に修正を加え、再度ご説明させていただき、ご署名を頂いています。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○	お子様の療育後には、必ずフィードバックの時間を設け、療育中のお子様の様子をお伝えすると同時に、保護者さまのお話をお伺いしております。必要に応じて別日で時間を設け、子育てのお悩みを伺ったり、相談に応じています。また、療育中でも保護者席にいらっしゃる保護者様とお話する機会を可能な限り設け、お悩みや不安に気付くことができるよう配慮しています。必要に応じ、助言や支援を行っています。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	○	父母会を開催し、同じ悩みを持つ保護者様同士での情報交換の場を設けました。また小学校就学を見越した普通級、支援級の選び方などのご提案をし、先を見通しも立てられるよう情報共有をしています。今後も1年に一度のペースで開催していきたいと思っております。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○	保護者席には、目につく箇所に「相談受付」の掲示を行い、且つ「相談受付用紙」を設置することで、お気軽にご相談ができる体制と環境を整えています。また相談や申入れを受けた場合には、可能な限り迅速かつ適切に対応しています。
	37	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○	Instagramで療育の様子を発信したり、HPにも記事を掲載して活動内容等が伝わるように発信しています。また、祝日や日曜日に行われる集団療育の際には、活動の様子がわかるような個人写真をお送りしています。
	38	個人情報の取扱いに十分注意しているか	○	個人情報の取扱いには十分注意し、個別ファイルは鍵付き書庫で事務所保管しています。
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○	利用者様の要求を伝える手段として、PECS(絵カードコミュニケーションシステム)やマカトン指導したり、カードや物を使って伝える工夫を行っています。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	○	地域に開けた福祉を目指し、地域住民向けの「夏祭り」を開催しました。開催前には事業所前にチラシを設置したり、目を引く看板を付けて周知を広げていきました。今後も開催を検討したいと考えています。
	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	○	各種マニュアルを整備すると同時に、感染対策委員会・虐待防止委員会・身体拘束適正化委員会をつくり、年計画に沿って研修や訓練を行っています。特に感染症対応マニュアルでは、時期に合わせて感染症の症状を周知したり、嘔吐処理を実際に想定して訓練を行っています。
非常時等の対応	42	業務継続計画(BCP)非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○	毎月一回以上、避難訓練や子どもたちに向けた災害に関する指導を行っています。職員・ご利用者様・保護者様にもご参加いただきながら、全員で実際の避難を想定して訓練を行っています。BCPも策定しています。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか	○	事前にフェイスシートにて、アレルギー・心臓疾患・発作・視聴覚・服薬などについて利用者様の状況を確認しています。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	○	食事提供を行う場面はほぼありませんが、年に数回クッキングなどを行う際には、対象児童アレルギー食品は除去したり、複数の職員で安全確認を行っています。また、必要に応じて医師の指示書を参考にさせていただきます。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○	ヒヤリハットがあった場合には、当日又は次の日に情報共有を行い、再発防止のための対応を職員皆で考えて改善しています。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○	虐待防止委員会が、虐待防止に関する研修を行い、職員で理解を深めています。また適切な支援と適切ではない支援についてのグレーゾーンについても共通認識を持つことができるように、研修を行っています。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか	○	本人や他児にけがの恐れがある場合、物を破壊する等危険な行動があった場合のみ、行動制限は一時的に行うことを決定しています。また、身体拘束に関する説明書にて、保護者の方に身体拘束を行う場合・理由・方法・時間などについて説明を行っています。